

ごみQ&A

ごみについて皆さんが疑問に思っていることにお答えします。

- Q** 市の指定ごみ袋はどこで手に入りますか？
A 南国市の指定袋については、市民の皆さんには春に環境委員さん（旧衛生委員）を通して一年分のごみ袋を（100枚を限度に）交付（有料）しています。もし、都合により買えなかったり、予定していた枚数よりも使ってしまったときは、市役所の売店で購入するか、お近くの環境委員さんに相談してください。
- Q** なぜ量販店で売らないのですか？
A 皆さんが使っている袋は市長が指定したごみ容器であって、商品とは違います。従ってスーパーなどの量販店には置いていません。また、交付時に各家庭でごみの排出について1年間の計画を併せてもらい、減量化へとつなぐ意味もあります。
- Q** 環境委員さんを知らないのですが……
A 環境委員さんは部落や町内会に最低1人はいます。先に述べたごみ袋の販売の他にごみの出し方の指導などをしていただいています。住所を言っていただければ生活環境課でお教えします。（☎市役所内線341）
- Q** すく燃やすのに袋に費用をかけるのはもったいない!!
A この他にも、指定をやめろといった声も聞かれます。ごみ袋を指定有料にしたのは、ごみ処理費用は

皆さんの税金でまかなっているのです。ごみを大量にだす人とごみの減量化につとめている人との不公平さをなくすことや、市の財政は決して裕福であるとはいえないので、ごみ袋を有料化することによってごみ処理費用を軽減させることなどが理由です。また、他の目的に使われたり、無駄に使われたりすることを防止する意味もあります。さらに、収集過程でも大きさや重さが平均するので、収集作業員の作業効率と安全性の確保ができます。また、指定袋にすることにより分別状況や地域の美観がより向上することもあります。

- Q** ごみ袋一杯のごみを処理するのにいくらかかりますか？
A 1袋15kg平均として約500円程度です。（年間約2億6千万円）その内1袋当たり20円を、皆さんに直接負担していただいています。
- Q** 収集回数を増やして欲しい。
A 南国市は、ごみの収集を市内の業者に委託しており、日曜日と年末年始以外の日は休みなく収集作業をし、1か月で全地区を収集しています。収集回数を増やすには収集車や作業人員の補充が必要です。その分ごみ処理費用が増加することになり、現在の財政状況では実現が難しいです。
- Q** 全国的にリサイクルの声がきかれますが……
A 南国市ではすでに金属のリサイクルをしています。資源化と埋立場のことを考えて、びんのリサイクルも検討しているところです。



緑ヶ丘

南国市より委嘱された環境委員を先頭に、実際に、各ステーションごとに管理・清掃などにあたる

稲吉西北

違反に気付いた人が注意をしたり、指定以外のごみはすくにより分け別の場所に移すなど、ステーションの近所の協力体制がよくできているようです。自宅の前がステーションの高島美知子さんによると、ステーションをきれいにして、ごみを捨てにくくし、違反する人も少ないとか、こういう取り組みが、地区の人の、ごみ問題に関する意識を高めているようです。



衛生的に利用されているという大埔の稲吉西北のステーション、新興住宅地である緑ヶ丘の集居住宅でステーションの利用方法を聞いてみました。

人が決まっているので、できることなら地区の人みなさんに協力していただきたいとのことでした。

つてくれる衛生委員を決め、組織立ってステーションの衛生化に努めています。若い世代が多く、このようなやり方での意識疎通がうまくいっているようで、新入居者が知らずに違反することなく、たまにはあるようですが、目立って大きな問題はないとのこと。朝、自発的にステーションの清掃をする人や、取り残しごみをかたずけてくれる人もいるようです。また、自治会内で、一斉清掃をするなど、ごみ問題への関心は高いようです。



ごみステーション

ステーションには、鉄道の駅や、宇宙ステーションなど、いろいろなものがありますが、皆さんの一番身近にあるステーションといえはやはりごみステーションでしょう。

このごみステーションが、一部のモラルのない人達によって著しく汚されています。ごみステーションはその地域の文化のバロメーター。市民のみなさん一人ひとりの心がけが大切です。

そこで、「ごみ問題シリーズ」三回目の今回は、ごみステーション、ごみ袋について考えます。

▶小さな子どもルールを守っています



前日収集したばかりのゴミのありさま

ステーションはごみ捨て場か？

市が市内全域に設置しているごみステーションは、全部で六百三十ヶ所あります。このステーションは、一定の地域の家庭のごみを収集業者が取りに来るまで集積しておくための場所であって、決してごみ捨て場ではありません。

ところが、市内の少なからずのステーションでは、ごみの出し方のルールが守られていないために、ステーション転じてごみ捨て場になっているようなところが見られます。

人間の心理は面白いもので、心な一人の人が一個のごみを捨てることによって、たちまちその場はごみの山になってしまう。

いつもごみが山積みになった汚れたステーションは、その部落のモラルを疑われるものであり、近所迷惑や収集作業の安全や効率にも影響します。一人ひとりの心がけで地域全体を美しくしましょう。

責任持代
 市が直接取り扱うごみは、一般家庭から発生するごみだけで、農業や商売などの生産や流通の過程で発生するごみは、いずれも当事者自らが処理する責任があります。

ところが、しばしば農業用の腐材や商売用の大型冷蔵庫、店先や自動販売機から発生するカンやビンなどが一般ごみとともにステーションへ出され、対応に困っています。また、一般ごみは、燃えるごみ（指定ごみ袋制）、金属ごみ、金属以外のごみ、水銀ごみなど細かい分別排のルールが定められています。ごみはあらゆる不要となった物の混合体ですから、その組成物に見合った適切な処理をしなければ、環境汚染を引き起こしたり、巨額の費用がかかったりするからです。

ところが、これがなかなか守られないため、収集業者や再生処理業者、環境委員さんの頭痛の種になっています。

このため、久礼田地区の一部では、ごみ袋に名前を書いて出すことを地区で決め、効果をあげています。家庭からステーションに出されたごみは、さらに、最終処分されるまで多くの人手にかかりながら、適切に処理されているのです。出したごみに排出者が最後まで責任を持つという考え方がごみ問題を解決する第一歩ではないでしょうか。



市民と行政が共に自分たちのまちを再発見し、共にまちづくりを志していること年々、市民と市民の対等形態による意見交換を行っています。今回は第5回のふれあいトーク、「国際交流とまちづくり」をご紹介します。高知医科大学、高知大農学部留学生の参加もあり、国際交流の輪が広がりました。

まちづくり ふれあいトーク

外国人との出会い

○私と外国人との出会いは、学生時代を過ごした京都でのアルバイト先でした。その後、息子の幼稚園のクラスメイトのお母さんとの出会いがあり、その方は今神戸にいますが現在も交流をしています。三年前は同じ息子がフィリピンの留学生の子供さんと同級生になり、家も近所だったのでその方とも家族ぐるみのおつきあいをしています。こうして私が外国の方とお友達になれたのは、ごく普通の友達に接するようになって、お世話のしすぎでもなく、あまり遠慮

南国市での生活から

○中国から高知県に来て、最初は南国市で、途中高知市に、そして昨年からまた南国市に住んでいます。南国市に住む

国際交流のまちに

○外国人が南国市で安心して生活ができるようにサポートする人を登録し、主婦やシルバー人材を活用してはどうでしょう。年に一、二回市内在住外国人を招き、ごみの出し方、バス・バス・電車の乗り方、市内の施設見学など、学んでもらうための生活講座を開いては。○働く主婦が多い現在では、ホームステイを引き受ける家庭も限られてきています。気を使わず、普段着のままのつきあひ、情報交換をしあうていけば、もっと広がっていく

最後に...

「南国市の人口は四万人二千二百人、外国人登録者は百五十三人、中国人五十六人、韓国人二十一人、フィリピン二十三人...」南国市も日々国際化が進んでいく、関西国際空港まで四十分のエリアとなり、世界の国々とも近い距離となった。平成九年には高知新港が海外を結ぶ、十二年には高知空港に国際線の夢が、十四年には全国的なイベントとして、国民体育大会が高知県で開催、このような中で、だれもが南国市のこのまちに住みたい、魅力あるまちづくりを目指してコミュニケーションを作っていく

姉妹都市 おちのく 岩沼市



去る9月22日、姉妹都市岩沼市は局地的な豪雨に襲われ多大な被害を受けられました。被害の状況は、住宅の全壊3棟、床上浸水1,156棟、道路の損壊など49か所、などです。南国市は議会も含め、代表として大町市長、門田財政課長が岩沼市を訪問し、お見舞いをしました。岩沼市からお礼の手紙が届いています。

「9月22日、岩沼市は午後1時過ぎから翌日午前1時までには392mmという集中豪雨に見舞われました。この雨わずか20kmしか降っていない仙台市では半分以下しか降らないという局地的なもので、これまでに例のない災害を引き起こしました。

この災害で、南国市の方々にご心配をおかけし、早速大町市長様に訪問いただき、お見舞い金と励ましの言葉をいただきました。心からお礼を申し上げます。また、この災害により岩沼ふるさとまつりを中止することになり、南国市民の方々の訪問を受け入れられなくなりました。ご迷惑をおかけし申し訳なく思うとともに、せっかくの交流ができなくて残念でなりません。1日も早く元通りの生活ができるように、官民一体となって、復旧に取り組んでいきます」

アイデアポストより

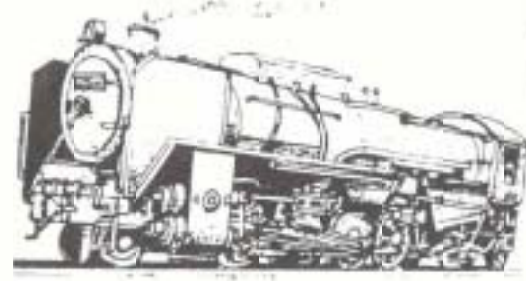


みなさん、一か月ぶりのアイデアポスト、未だ来ません。今月も楽しくて夢がいっぱいのアイデアがばくばくの所へ届けられました。その中から次の二つを紹介いたします。また楽しいアイデアを市役所一階のホールで待っています。

阿佐西線に「S.L.」を 全国的な評判に

アイデア①

南国市のみではできないことですが、現在、徐々に進行中である阿佐西線のことです。リニア・モーターカーの計画はなくなったそうですが、リニアや一般の電車ではなんの面白味もありません。また、電車が走りだしても現在の自動車の普及からいって地元の人々の利用率はまず見込めないと思います。では、何を走らせるか、それは「S.L.」を走らせます。一年中、いつでもS.L.の走る格闘として全国的に評判となり、県外客の呼び込みもでき



ます。土佐電鉄の外国電車とちりとも後免駅から...想像しただけで楽しくなります。沢村雅尚(廿枝)

土に親しむ人口？ 生鮮野菜はクラブハウスで

アイデア②

ゴルフ人口、パチンコ人口、つり人口という言葉があります。ですが、二十一世紀には「耕作者人口」とも呼ばれるであろう、土に親しむことを趣味とする人たちが増加するのではないかと考えます。クラブハウスには豆蔵な風呂、喫茶室などが整備され、送迎バスを備え付ける。休日農業従事者はそれを趣味とするグループを編成し、生鮮野

菜の植えつけから取り入れまてを行う。休日外は専任のフイールドキーパーによる徹底管理を展開する。すぐれた野菜を生産し、一大産地として大規模経営を行う。休日従事者は、そのローテーション終了後は、風呂に入り、ビールを飲み、気分爽快で送迎バスに乗り込む。キャベツ、白菜、大根など一時期に大量の人手が必要とされる露地野菜の大規模経営に可能性があらはれないかと考えます。



ただし、経営はトントンが最良であり、決して大きな赤字が出る必要はなく...。休日が充実すれば赤字でも良いのでは...。上田善保(大地)